

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/09/02

各国の金融政策を注視

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	RBAの政策スタンスを確認 予想レンジ: 84.00 ~ 91.00 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	RBNZの利上げ開始時期を占う 予想レンジ: 73.20 ~ 79.70 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	打つ手少ない中SARBの見解は？ 予想レンジ: 8.90 ~ 10.30 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



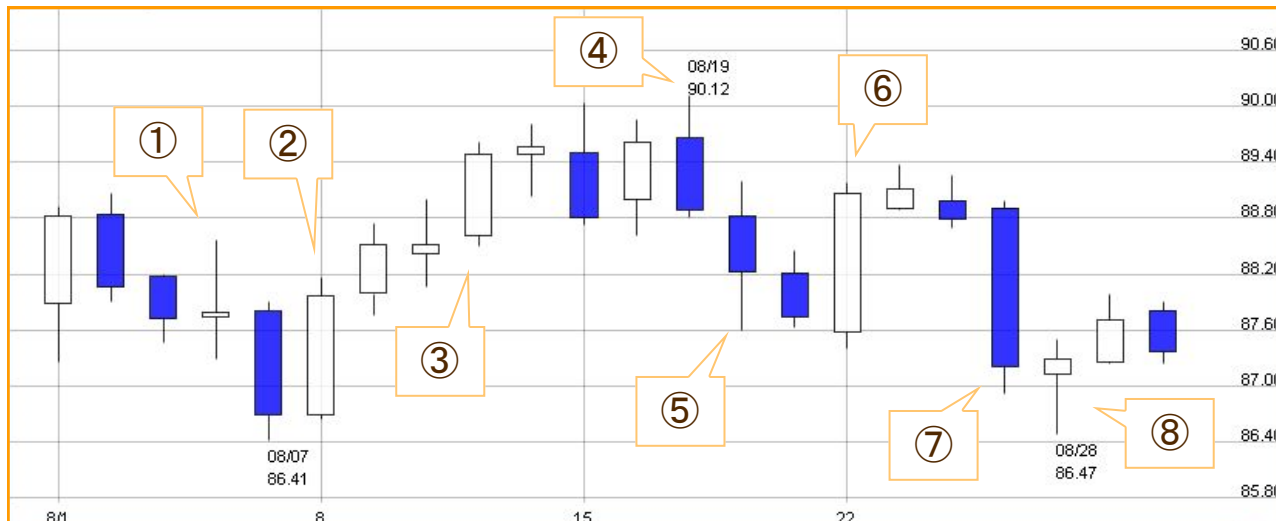
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	87.89円	90.12円	86.41円	87.37円



①

6日、RBAは政策金利を0.25%引き下げて過去最低の2.50%とするも、事前に利下げが確実視されていた他、一部で0.50%利下げ観測が流れていた事もあり、発表後は豪ドル買いが優勢となった。声明文で今まで見られた「一段の緩和余地がある可能性」の一文が削除された事により、一部で利下げ打ち止めの思惑が浮上した事も、上昇を後押しした。

②

8日、豪7月雇用統計は失業率こそ5.7%(予想:5.8%)となるも、雇用者数変化が1.02万人減(同:0.50万人増)、労働参加率が65.1%(同:65.3%)となった事が嫌気され、豪ドル/円は下落。ただ、直後に発表された中国7月貿易収支の内訳にて、輸入総額が前年比+10.9%と事前予想(同+1.0%)を大幅に上回った事を好感して反発。NYダウ平均株価の上昇もあり、88.16円まで一段高となった。

③

13日、日本経済新聞が「安倍首相が、消費増税と一体で法人税率引き下げを検討するよう関係府省に指示」と報じたことを受けて円売りが優勢となり、豪ドル/円は上昇。軟調に推移していたNYダウ平均がプラスサイドに切り返した事も追い風となった。

④

19日、独連銀が「欧州中銀(ECB)のフォワードガイダンスは利上げの可能性を排除しない」との見解を示した事を受けてユーロ/円が急騰すると、豪ドル/円は90.12円まで連れて上昇。ただ、その後はNYダウ平均株価の軟調推移を嫌気して88.80円まで急反落となった。

⑤

20日、日経平均株価が引けにかけて370円超の下げを記録し、欧州株が安く始まった事を受け、豪ドル/円は一時87.60円まで下落。なおRBA議事録では「一段の利下げをただちに実施する意図を示すことも望まず」などの見解が示された事を受けて豪ドルが買われたが、アジア株安が進む中では一時的な反応に留まった。

⑥

22日、中国8月HSBCフラッシュ製造業PMIが予想(48.2)を大きく上回る50.1となった事を受け、豪ドル/円は上昇。予想を上回る独・ユーロ圏の8月製造業PMIを受けた欧米株高も追い風となった。

⑦

27日、新興国での通貨安・株安を背景とした円を買い戻す動きや、「西側諸国は数日以内に攻撃がある可能性をシリア反政府派に対して通達した」との一部報道を背景にリスク回避の動きとなり、豪ドル/円は一日を通して軟調に推移した。

⑧

28日、シリア情勢への懸念や、エドワーズRBA理事が「鉱業セクターの低迷による豪経済への影響を緩和するために豪ドルは一段と下落する必要がある」との認識を示した事を受け、豪ドル/円は86.53円まで急落。ただ、その後はNYダウ平均株価の堅調推移を背景に87.49円まで反発した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

8月の豪ドル/円相場は86.41円～90.12円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.7%の下落(豪ドル安・円高)となった。RBAが利下げを発表するも、市場ですでに織り込まれていた事から、発表直後は豪ドル買いが優勢となった。その後、本邦の法人税引き下げ観測を背景とする円売りが出るも一時的となり、米量的緩和の早期縮小観測を受けた新興国の株安・通貨安の影響や、シリア情勢緊迫化によるリスク回避の流れを嫌気して弱含むなど、方向感が定まらない展開となった。

9月の豪ドル/円相場は、RBAキャシュターゲットに市場の関心が集まっている。今回は金利据え置きがコンセンサスとなっており、声明文が目目される。先月は今まで見られた「一段の緩和余地がある可能性」との文言を外しており、一部で緩和的スタンスから転換したとの観測が浮上したが、議事録では「理事会は追加利下げの可能性を閉ざすことも、追加利下げを直ちに実施する意図を示すこともすべきではない」との見解を示している。RBAの政策スタンスを確認したい。また、前回(2010年)の豪総選挙では与野党ともに過半数に達しなかった事を嫌気して豪ドルが売られたのは記憶に新しい。今回、政局が混乱するようだ豪ドル売り要因となり得るので注意したい。

一方、米国では量的緩和縮小開始を占う上で、米8月雇用統計が最大の注目材料となろう。予想より強い結果となり、9月米連邦公開市場委員会(FOMC)にて縮小を開始するとの見方が一段と強まるようだ、ドル買いが優勢となって豪ドル/米ドルが下落し、連れて豪ドル/円が値を下げる展開が予想される。ただし、縮小開始観測が高まるという事は、米経済が順調に回復している証拠でもあるため、株価が上昇するようならば豪ドル/円相場を押し上げる事も考えられる。その他、持ち直しの兆しが見られる中国経済の行方や、本邦要因(消費増税や法人税減税の行方、オリンピック開催地決定など)、シリア情勢なども、豪ドル/円相場を動かす手掛かり材料となろう。(川畑) (予想レンジ: 84.00～91.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

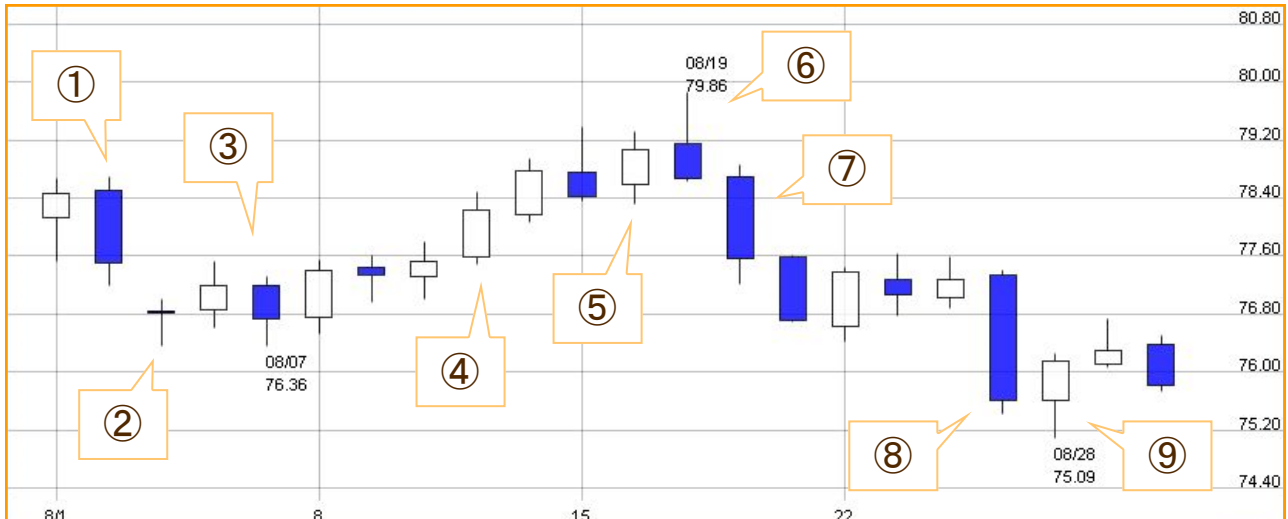
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/1(日)	8月中国製造業PMI	9/7(土)	豪総選挙
9/2(月)	7月豪住宅建設許可件数		2020年オリンピック開催地決定
9/3(火)	7月豪小売売上高	9/8(日)	8月中国貿易収支
	RBAキャシュターゲット	9/9(月)	第2四半期本邦GDP・二次速報
	8月米ISM製造業景況指数		8月中国消費者物価指数
9/4(水)	第2四半期豪GDP	9/10(火)	8月中国鉱工業生産
	米地区連銀経済報告(ページブック)	9/12(木)	8月豪雇用統計
9/5(木)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	9/13(金)	8月米小売売上高
	7月豪貿易収支		9月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	8月米ADP全国雇用者数	9/17(火)	RBA議事録
	8月米ISM非製造業景況指数	9/18(水)	米FOMC政策金利発表
9/6(金)	G20首脳裁会議(5日～)	9/23(月)	9月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	8月米雇用統計		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	78.14円	79.86円	75.09円	75.82円



- ① 2日、米7月非農業部門雇用者数が16.2万人増と予想(18.5万人増)を下回った。また、失業率が7.4%と市場予想(7.5%)よりも強い結果となったが、これは労働参加率の低下を背景とする弱い結果だった。これを受けたドル/円の下げに連れてNZドル/円は下落した。
- ② 5日、前週3日にNZ乳製品大手フォンテラが「同社一部製品にボツリヌス菌が混入した可能性がある」と発表した事を受け、中国政府が4日に同社製品を輸入している業者に回収を指示し、同国産粉ミルクの輸入を禁止した。この報道を受けてNZドル/円は前週終値から70銭近く急落して寄り付いた。欧州市場にて材料として蒸し返されると、76.37円まで一段安となった。
- ③ 7日、ドル/円の急落や、本邦や欧州での株安を嫌気して、NZドル/円は一時76.36円まで下落した。なお、NZ第2四半期失業率は6.4%(予想:6.3%)となるも、労働参加率が68.0%(同:67.9%)となったため、市場の反応は限定的であった。
- ④ 13日、日本経済新聞が「安倍首相が、消費増税と一体で法人税率引き下げを検討するよう関係府省に指示」と報じたことを受けて円売りが優勢となり、NZドル/円は上昇。軟調に推移していたNYダウ平均株価がプラスサイドに切り返した事も追い風となった。
- ⑤ 16日、NZ首都ウェリントンで発生したM6.8の地震を受け、NZドル/円は約40銭急落。ただ、その後は上海株の急騰を受けて反発した。
- ⑥ 19日、独連銀が「欧州中銀(ECB)のフォワードガイダンスは利上げの可能性を排除しない」との見解を示した事を受けてユーロ/円が急騰すると、NZドル/円は79.86円まで連れて上昇。ただその後、NYダウ平均株価の軟調推移を嫌気して78.63円まで急反落となった。
- ⑦ 20日、ウィーラーNZ準備銀行(RBNZ)総裁が10月から住宅融資規制を導入する事を明らかにした他、NZドル高をけん制する発言を行った事により、NZドル/円は急落。日経平均株価が引けにかけて370円超の下げを記録した流れを引き継いで欧州株が安く始めると、77.22円まで一段安となった。
- ⑧ 27日、新興国での通貨安・株安を背景とした円を買い戻す動きや、「西側諸国は数日以内に攻撃がある可能性をシリア反政府派に対して通達した」との一部報道を背景としたリスク回避の動きにより、NZドル/円は一日を通して軟調に推移した。
- ⑨ 28日、シリア情勢への懸念からNZドル/円は75.09円まで下落するも、その後はNYダウ平均株価の堅調推移を背景に76.25円まで反発した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

8月のNZドル/円相場は75.09円～79.86円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.0%の下落(NZドル安・円高)となった。NZ大手フォンテラの乳製品に異物が混入した可能性が嫌気されたのを始め、米量的緩和の早期縮小観測を受けた新興国の株安・通貨安の影響や、シリア情勢緊迫化によるリスク回避の流れを嫌気して、値を下げた。

9月は、NZの金融政策に注目したい。足下では第2四半期小売売上高や、7月ビジネスNZ製造業PMI(59.5と2004年6月以来の高水準を記録)が市場予想を上回るなど、NZ経済の底堅さが見られる中、市場ではRBNZが来年前半に利上げを開始すると予想する声が多い。前回の声明で「将来、金融緩和の解除がおそらく必要となろう」と言及しており、今回は利上げ開始に向けた新たなヒントが提示されるかがポイントと見る。19日の第2四半期GDPもまた、利上げ開始時期を占う上で材料視されよう。

一方、米国では量的緩和縮小開始を占う上で、米8月雇用統計が最大の注目材料となろう。予想より強い結果となり、9月米連邦公開市場委員会(FOMC)にて縮小を開始するとの見方が一段と強まるようだ、ドル買いが優勢となってNZドル/米ドルが下落し、連れてNZドル/円が値を下げる展開が予想される。ただし、縮小開始観測が高まるという事は、米経済が順調に回復している証拠でもあるため、株価が上昇するようならばNZドル/円相場を押し上げる事も考えられる。FOMC後の株価の動向が鍵である。

その他、持ち直しの兆しが見られる中国経済の行方や、本邦要因(消費増税や法人税減税の行方、オリンピック開催地決定など)、シリア情勢なども、NZドル/円相場を動かす手掛かり材料となるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 73.20～79.70円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

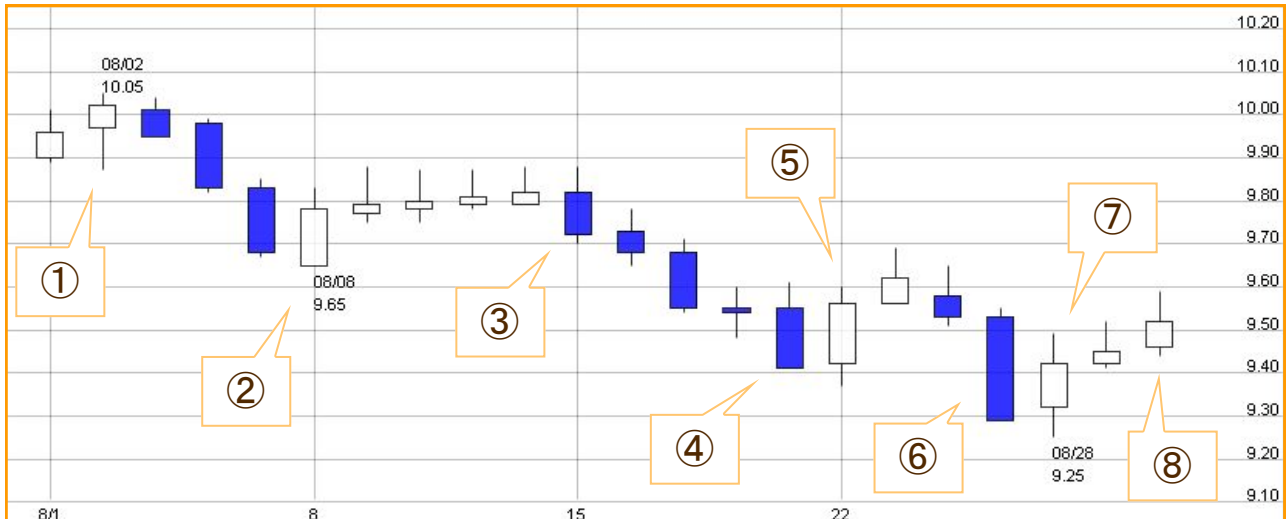
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/1(日)	8月中国製造業PMI	9/9(月)	8月中国消費者物価指数
9/3(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/10(火)	8月中国鉱工業生産
9/4(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)	9/12(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
9/5(木)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	9/13(金)	8月米小売売上高
	8月米ADP全国雇用者数		9月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	8月米ISM非製造業景況指数	9/18(水)	米FOMC政策金利発表
9/6(金)	G20首脳裁会議(5日～)	9/19(木)	第2四半期NZGDP
	8月米雇用統計	9/23(月)	9月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
9/7(土)	2020年オリンピック開催地決定	9/25(水)	8月NZ貿易収支
9/8(日)	8月中国貿易収支	9/30(月)	8月NZ住宅建設許可
9/9(月)	第2四半期本邦GDP・二次速報		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.90円	10.05円	9.25円	9.52円



①

2日、米7月非農業部門雇用者数が16.2万人増と予想(18.5万人増)を下回った。また、失業率が7.4%と市場予想(7.5%)よりも強い結果となったが、これは労働参加率の低下を背景とする弱い結果だった。ランド/円はドル/円と米ドル/ランドに挟まれて乱高下するも、その後は米ドル/ランドが下落(=ランド高)した影響をより強く受けて10.05円まで上昇した。

②

8日、中国7月貿易収支の内訳にて、輸入総額が前年比+10.9%と事前予想(同+1.0%)を大幅に上回った事が材料視され、ランド/円は値を上げた。NYダウ平均株価の上昇もあり、9.83円まで一段高となった。

③

15日、予想より強い米新規失業保険申請件数を受けてドル買いが優勢となり、米ドル/ランドが上昇した動きに連れて、ランド/円は9.70円まで下落。米長期金利の上昇を嫌気してNYダウ平均株価が寄り付きから大きく下落した他、その後発表された米経済指標が予想を下回った事でドル/円が下げた事も重石となった。

④

21日、新興国通貨全般に売りが強まる中、米ドル/ランドの上げ主導でランド/円は9.41円まで下げた。なお、南ア7月消費者物価指数が前年比+6.3%(事前予想:6.2%)と南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年3~6%)の上限を突破するも、反応は薄かった。

⑤

22日、中国8月HSBCフラッシュ製造業PMIが事前予想(48.2)を大きく上回る50.1となった事を受け、ランド買いが優勢となった。予想を上回る独・ユーロ圏の8月製造業PMIを受けた欧米株高も追い風となり、9.60円まで一段と上昇した。

⑥

27日、新興国での通貨安・株安を背景とした円を買い戻す動きや、「西側諸国は数日以内に攻撃がある可能性をシリア反政府派に対して通達した」との一部報道を背景にリスク回避の動きとなり、ランド/円は軟調に推移した。

⑦

28日、シリア情勢への懸念を背景に日経平均株価の下げ幅を拡大した事を嫌気して、ランド/円は一時9.25円まで下落。ただ、その後はNYダウ平均株価の堅調推移を背景に一時9.49円まで反発した。

⑧

30日、米WSJ紙が「ゴードン南ア財務相が『通貨の下落を抑制する対策を検討する』と述べた」と報じた事を受け、ランド/円は9.59円まで上昇。ただその後、南ア財務省からこの報道を否定する声明が伝えられると上げ幅を縮小した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

8月のランド/円相場は9.25円～10.05円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.0%の下落(ランド安・円高)となった。米量的緩和の早期縮小観測を受けて新興国を中心に通貨安・株安が進み、米ドル/ランドが2009年3月以来の水準に上昇(＝ランド安)した他、南ア国内のスト拡大や、リビア情勢緊迫化も重石となり、軟調に推移した。

9月のランド/円相場は、引き続き買い材料に乏しい展開が予想される。南ア国内のストが早期に収束する可能性が低い中、国内景気が悪化する一方でインフレ率はSARBのインフレ目標の上限を突破。仮に景気に配慮して利下げを行えば一段のインフレをもたらすリスクがあるため、SARBは当面政策金利を据え置く公算が大きい。ランド安もまたインフレに拍車をかけている。その中で、SARBが声明でどのような見解を示すかが、今後の金融政策を読む上でポイントとなりそうだ。

一方、米国では量的緩和縮小開始を占う上で、米8月雇用統計が最大の注目材料となろう。予想より強い結果となり、9月米連邦公開市場委員会(FOMC)にて縮小を開始するとの見方が一段と強まるようだと、ドル買いが優勢となって米ドル/ランドが上昇し、連れてランド/円が値を下げる展開が予想される。ただし、縮小開始観測が高まるという事は、米経済が順調に回復している証拠でもあるため、株価が上昇すればランド/円相場を押し上げると見るが、その勢いは近い将来の利上げが視野に入っているNZやカナダと比べ劣るだろう。(川畑)

(予想レンジ:8.90～10.30円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/1(日)	8月中国製造業PMI	9/10(火)	8月中国鉱工業生産
9/3(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/13(金)	8月米小売売上高
9/4(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)		9月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
9/5(木)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	9/18(水)	8月南ア消費者物価指数
	8月米ADP全国雇用者数		7月南ア実質小売売上高
	8月米ISM非製造業景況指数		米FOMC政策金利発表
9/6(金)	G20首脳裁会議(5日～)	9/19(木)	SARB政策金利発表
	8月米雇用統計	9/23(月)	9月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
9/7(土)	2020年オリンピック開催地決定	9/26(木)	8月南ア生産者物価指数
9/8(日)	8月中国貿易収支	9/30(月)	8月南ア貿易収支
9/9(月)	第2四半期本邦GDP・二次速報		
	8月中国消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。